

**注意！**

■この記事は発行年月日時点の内容のまま公開していますので、ご覧になった時点の法規制(農業使用基準等)等に適合しなくなった内容を含む可能性がありますから、利用にあたってはご注意ください。

# 農作物技術情報 第3号 野菜

発行日 平成21年 5月28日  
発行 岩手県、岩手県農作物気象災害防止対策本部  
編集 中央農業改良普及センター 県域普及グループ (電話 0197-68-4435)

携帯電話用QRコード



「いわてアグリベンチャーネット」からご覧になれます  
パソコンからは「<http://i-agri.net>」 携帯電話からは「<http://i-agri.net/agri/i/>」

**ハウス果菜類**

**露地果菜類**

**雨よけほうれんそう**

**露地葉菜類**

**温度管理の徹底と病害虫防除に努めましょう！**

**活着促進のため、土壌水分と地温を確保しましょう！**

**ハウス管理に注意して高温や多湿を回避しましょう！**

**害虫の発生が多くなりそうです。早めの防除を！**

## 1 生育概況

(1) ハウス果菜類は、半促成きゅうり、半促成トマトとも収穫が始まっていますが、例年に比べると生育はやや進んでいます。総じて生育は良好ですが、半促成きゅうりでは、うどんこ病やホモブシス根腐病の発生している圃場がみられます。

また、雨よけ施設を利用したトマト・ミニトマト、ピーマンでは、定植後の急激な温湿度変化の影響があるものの、生育は概ね順調です。高温経過によりアブラムシ類やスリップスの発生が多い圃場もみられます。

(2) 簡易雨よけトマト、露地きゅうり、露地ピーマンは育苗が進んでおり、例年と同様5月下旬から定植が始まっています。

(3) 雨よけほうれんそうの生育はほぼ順調ですが、寒暖の差が大きいこともあり生育が遅れ気味の圃場もみられます。ハウレンソウケナガコナダニによる被害が散見されています。

(4) 県中部の露地レタスの収穫はピークを迎え、県北部でも一部収穫が開始しています。キャベツの定植は県北部でも進んでいます。乾燥の影響による生育の遅れは解消しつつあります。

(5) 露地普通作型のアスパラガスの収穫ピークは過ぎ、立茎栽培では春芽の収穫が間もなく終了します。ねぎは定植後の乾燥の影響でやや緩慢な生育となっていました。回復しつつあります。

## 2 技術対策

(1) 圃場の排水対策とかん水

例年、排水不良が原因と思われる生育障害が見受けられます。安定生産を行うためには、定植前の明きょ(額縁明きょ含む)や補助暗きょの設置が効果的です。特に、水田転作の場合は、ほ場外からの水の浸入防止に留意し、水路等の点検整備を行うとともに、排水不良が十分改善されない場合は、高うね栽培にするなどの対策が必要です。

一方で、露地栽培であってもかん水を行うことにより生育促進、収量向上、施肥効率の改善などの効果が見られますので、かん水装置の導入を進めましょう。

## (2) ハウス果菜類の管理について

主要3品目の温度管理については、前号を参照して適正な管理に努めてください。

今後、気温の上昇とともに収穫量が増加してきますので、追肥やかん水、整枝、誘引などの作業を遅れないように実施し、草勢の維持に努めます。

現在、雨よけ作型のトマト、ピーマンでは病害虫の発生は多くはありませんが、今後、アブラムシ類やスリップス、ハモグリバエ類など害虫の発生が目立ってきますので、初期防除に努めてください。

また、日照不足が続くと、灰色かび病や葉かび病が発生しやすくなります。特に、半促成作型では過繁茂になりやすい時期で、低温時にハウスを密閉すると、湿度が一層高まり、灰色かび病の発生が助長されることから、湿度を上げないように風通しを良くするとともに、予防散布を心掛けてください。

## (3) 露地果菜類の定植と定植後の管理

### ア きゅうり

定植時の低温や水分不足などによって活着するまでに日数を要したり、生育が停滞しやすくなります。初期生育を良好にするためには、土壤水分が適正な状態でマルチを張り、15以上の地温を確保してから定植するようにしましょう。

また、ホモブシス根腐病の発生により作付け圃場を変えた場合は、病害発生圃場の土を持ち込まないよう、農機具を水洗いするなど適切な管理に努めてください。

定植作業は晴天日を選んで行い、深植えは避け、根鉢の部分が乾いたら株元にかん水するとともに、天候不順の場合は液肥を薄めて株元に施用するなど活着を促すようにします。

斑点細菌病の予防として定植時に土壤施用剤を植穴処理します。利用する場合は、適正な処理量と土壤混和の実施により薬害等が発生しないよう注意が必要です。

定植後、本葉10枚ころまでに主枝の7節以下の雌花と側枝は早めに除去し、着果させる節位は必ず30cm以上で8～9節からとしますが、節間が短い場合や生長点が小さい場合は、着果させる節位を1～2節上げ、高さ35～40cmまでの雌花や側枝は除去し、草勢の維持を最優先に考えます。最初に利用する側枝1～2本は1節摘心、3～20節前後までの側枝は2節摘心、孫枝は1節摘心を基本とします。



キュウリホモブシス根腐病による急性萎ちょう症状  
初期のうちは、晴天の日中に萎ちょうし、朝夕や曇雨天日には回復を繰り返す。

細根は脱落し、根の表面には黒変病斑を形成

## イ ピーマン

トンネル栽培では、最低気温が17℃を超える頃には有孔フィルムを除去します。日中はトンネル内が高温になりやすく、生育障害（葉焼け、落花）が発生しやすいので、資材を開放して換気を行います。

露地作型の定植時期は、地域の晩霜限界より5日程遅く設定し、定植1週間前までにマルチを張り地温を十分に上げ活着促進と生育促進を図ります。

整枝は主枝4本仕立てで側枝は放任とします。3本分枝は生育初期に主枝となる枝を4本残し整理するとともに、第1分枝の下部より発生したわき芽は随時かきとります。

誘引は、うねの両側に支柱を立てマイカー線などを高さ50～60cmで水平に1～2段張り、枝が垂れ下がらないようにします。

### （4）雨よけほうれんそうの栽培管理

寒暖の差が大きな気象条件が予想されます。換気を十分に行い、ハウス内の気温や湿度が高くなりすぎないように注意します。べと病レース7までの抵抗性を持った品種の作付けが多くなっていますが、抵抗性を打ち破るべと病が発生する可能性もありますので、ハウスの換気は十分行うようにします。

近年、6月でも高温となることが多く、萎凋病を中心とした土壌病害が早くから発生しています。ハウス内の温度管理には十分注意するとともに、例年土壌病害の発生が多い圃場では、土壌消毒の実施を検討しましょう。

日長が長くなり、ほうれんそうが抽台しやすい条件となります。抽台しにくい品種を用いるとともに、生育が停滞しないように、播種時のかん水、温度管理をしっかりと行いましょう。

ハウレンソウケナガコナダニによる被害は全県的に見られています。防除対策として次の点を実践しましょう。

春～夏には堆肥の施用を控える。

農薬使用基準を遵守しつつ、薬液がムラなく十分かかるように丁寧に散布する。

被害の見られた株や残さは必ずハウス外に持ち出し処分する。

### （5）露地葉菜類の害虫防除

#### ア キャベツ

平年に比べてコナガの産卵数が多く、今後の食害の増加が懸念されます。幼虫の発生を確認したら防除を行いましょう。

また、これから定植する作型では、必ず定植時に殺虫剤を施用しましょう。

ヨトウガの防除適期は例年より早く、県南部で5月下旬、県中部、県北部では6月上旬からと見込まれます。成長した幼虫は食害量が多くなりますので、適期防除に努めましょう。なお、同系統の薬剤の連用とならないように注意して防除しましょう。

## イ レタス

ナモグリバエの被害が多くなる時期です。特に低温で経過すると発生が継続して、生育や収量にも影響を及ぼす可能性がありますので、早めの防除を心がけましょう。防除開始の目安は右図を参照して下さい。

### 【防除適期の判断方法】（図参照）

最上位葉～1枚目には被害がみられないので、2～4枚目の葉における幼虫の食入痕の有無を観察する。防除適期は幼虫の食入開始初期（図の2、4葉にみられる被害程度）である。



## （6）アスパラガスの栽培管理

普通作型のアスパラガスでは、L品の割合が20%を切るようになった頃が収穫終了の目安です。立茎栽培（2期どり栽培）を行う場合には、更に早く春芽（立茎前の萌芽）の収穫を終了します。

春の収穫が終了した後、茎葉が繁茂する前から、斑点病、茎枯病を対象とした殺菌剤を散布します。また、倒伏防止用のフラワーネットの利用や雑草防除により、通風や日当たりを良くするように心がけます。

## （7）ねぎの栽培管理

定植後1ヶ月程度たってから土寄せ（土入れ）を開始し、その後生育状況を見て追肥、土寄せを行います。乾燥でやや生育が遅れている圃場もありますので、無理な土寄せは行わず、計画的な作業を心がけましょう。

ネギコガの発生がやや早めです。被害に注意し、早めの防除を心がけましょう。

**春の農作業安全月間実施中！**

**6月1日～8月31日は  
農薬危被害防止運動期間です**

急ぐより 家族の笑顔を大切に 想う心で ゆとりの仕事

近隣住民・周辺環境に配慮しましょう。  
農薬散布準備、作業中・後の事故に注意しましょう。  
農薬の保管・管理は適切にしましょう

次号は6月26日（金）発行の予定です。気象や作物の生育状況により号外を発行することがあります。発行時点での最新情報に基づき作成しております。発行日を確認のうえ、必ず最新情報をご利用下さい。